



特集
①

ふくしまながら、地球を守ろう!

地球温暖化

が原因とされる異常気象が、

日本そして世界各地で、水害や干ばつ、農作物への被害など、さまざまな悪影響を引き起こしており、今後20〜30年の温室効果ガスを削減する努力が、地球の将来を決定付けるともいわれています。

目標は
マイナス8割

県内における二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量は、平成17年度で、2,198万4千ト。基準年度である平成2年度を27.2割上回っており、県地球温暖化対策推進計画で定めた平成22年度の目標値であるマイナス8割の達成が困難な状況になっています。そこで県では、県民総参加で目標を達成するため、今年5月に「地球にやさしいふくしま」県民会議を設立。「地球にやさしいふくしま宣言」を採択し、県民一人一人の取り組みを進めています。



【出典：県環境共生課「福島県地球温暖化対策推進計画」および「福島県における2005年度(平成17年度)の温室効果ガス排出量について」】

地球にやさしい “ふくしま”宣言



地球温暖化は、その予想される影響の大きさや深刻さからみて、私たちの生存基盤を脅かす最も深刻な環境問題であり、尾瀬や猪苗代湖、磐梯山に代表される美しい自然に恵まれた私たちのふるさと福島県や、そこで暮らす私たちの暮らしにも影響を与えようとしています。この温暖化がもたらす危機を回避するためには、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスを大幅に削減することが必要であり、私たち一人一人がこの問題を自らの問題として捉え、家庭や職場、地域において、私たちができる取り組みを行うことが、今まさに求められています。私たち、地球にやさしい“ふくしま”県民会議は、健全で恵み豊かな環境の保全とそれらを通じて幸せを実感できる生活をしっかりと守り、次の世代に継承するために、以下の活動に取り組むことを宣言します。

取組内容

- 1 私たちは、地球温暖化問題を自らの問題として真剣に考え、あらゆる場面で、率先して行動をおこします。
- 2 私たちは、温室効果ガス排出量の増加が家庭における日常生活と密接に関連していることを認識し、「もったいないの精神」のもと省資源・省エネルギー型のライフスタイルを実践し、「1人、1日、1kg CO₂削減」にチャレンジします。
- 3 私たちは、自主的に事業活動に伴って生じる温室効果ガス排出量の削減に努めるなど、事業者が社会の一員であることを認識し、環境に配慮したワークスタイルを実践します。
- 4 私たちは、自動車の使用に当たり、燃費性能の優れた自動車を利用し、エコドライブを実施するとともに、物流の効率化、公共交通機関の利用に努めます。
- 5 私たちは、地球温暖化対策に関する情報を積極的に発信・共有し、環境への理解を深め、相互に連携しながら県民総参加型の運動として環境を守る活動に取り組めます。

平成20年5月22日
地球にやさしい“ふくしま”県民会議



福島県議定書

知事と節電、節水などの約束を交わし、温室効果ガスの削減に取り組むのが、福島議定書。今年度は、昨年度の366件を大きく上回る2,456件(1,763事業所、学校関係693校)の議定書が締結され、温暖化防止に向けた取り組みが着実に県内に広がっています。



ふくしま環境・エネルギーフェア

12月20・21日の2日間、ビッグパレットふくしまで、「ふくしま環境・エネルギーフェア2008」を開催。新エネルギー、省エネルギー、廃棄物の減量化リサイクルなどの最新技術や県内における温暖化対策の取り組みを紹介します。

次に温暖化防止に取り組む人たちを紹介します。



「1日エコライフ」きっかけに

生活協同組合「コープあいづ」

執行役員 目黒善紀さん

ISO推進グループ 岩下優子さん

コープあいづでは、組合員とともに牛乳パックやトレーの回収、レジ袋の削減、生ゴミや発泡スチロールのリサイクルなど、さまざまな環境活動に熱心に取り組んでいます。

今年度からは、新たに全従業員と

組合員で、「1日エコライフ」を実践しました。家族で決めた1日を「エコライフデー」とし、家族ぐるみで、1つでも多くのエコ活動にチャレンジ。

371家族、1,196人が参加し、合計443^{キログラム}の二酸化炭素を削減しました。「ちよつとしたことでも、二酸化炭素を減らせることが実感できた」「できることから」を合言葉に、子どもと一緒に取り組んだので、楽しんでできた。車を使わないようにしたので、健康にも良かった。電気代も節約できた」などの感想が、参加者から寄せられました。

これまでの環境活動に加え、「1日エコライフ」という小さな取り組みが、世界をゆるがす地球温暖化問題を解決するきっかけとして、生協を超えて地域に大きく広がっています。



「1日エコライフ」をきっかけに、さらに取り組みを広げていきたいと話す目黒さん。



「温暖化防止のための取り組みは、環境にも、家計にもプラス。ぜひ取り組んでみては」と話す岩下さん。



広がり始めた「小さな芽」

学校法人郡山開成学園(郡山女子大学)

管財部長 緑川洋一さん

大学・短期大学部・附属高校と学校を挙げて温暖化防止に取り組む郡山開成学園。創立50周年に始めた省エネ活動をきっかけに、平成15年から本格的に環境活動に取り組んでいます。

平成16年には、教育機関として全国初のエコアクション21の認証・登録を受け、昨年までに28軒もの二酸化炭素削減に成功したのをはじめ、廃棄物や資源利用量の削減などで実績を上げてきました。施設改修に合わせた二酸化炭素の削減なども行いますが、基本は「できることから始める」こと。

照明やエアコンスイッチのステッカー啓発、温湿度計での室温調整、クールビズ・ウォームビズなどの地道な習慣付けが学園内に浸透し、学校林や屋上菜園の活動も学生の刺激になっています。

「学生の自発的な声を引き出し、教育機関として環境マインドを持った人材を育てていきたい」と話す緑川さん。育てた小さな芽が社会へと広がり始めています。



「温暖化は孫子の代に関わる問題。まずは意識し、できることから始めることが大切」と話す緑川さん。

エコアクション21とは

広く中小企業、学校、公共機関などが、組織的に環境方針を運営管理するシステムをつくり、目標達成に向けた取り組みを行い、環境活動レポートを定期的な作成、公表する仕組み。環境省のガイドラインに基づき認証・登録される。



連携を力に変えて

NPO法人ザ・ピープル 理事長
いわき産学官ネットワーク協会

吉田 恵美子 さん
早川 憲明 さん

いわき市では、新エネルギーやリサイクルの分野で環境ビジネスを行う事業者などが着実に育ちつつあります。平成2年から古着のリサイクルを続けるザ・ピープルは、いわき産学官ネットワーク協会の仲介により、地域で活用されていない使用済みの割りばしや食用油の再利用を進めてきた事業者と連携。「点」であった活動を「面」に変え、「エコポイント」を導入し、さらなる資源回収とその利用促進を目指します。

目標は埋もれた資源を回収することでごみを減らし、古着のリユース・リサイクルや木質ペレット、軽油代替燃料を生産・販売するといった市民と事業者の連携による新しい環境ビジネスのモデルを確立すること。

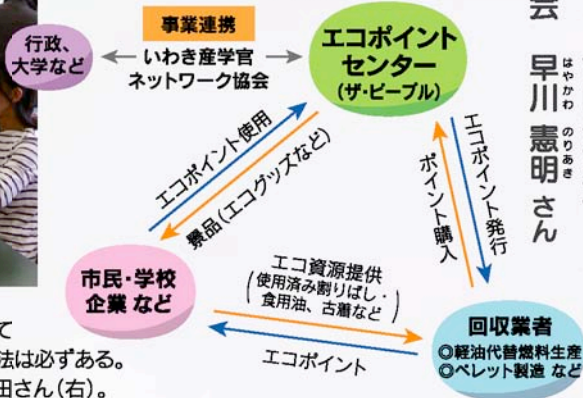
「育ちつつある芽の連携で個々の限界を超えたい。試行錯誤しながら『エコポイント』を育てていきたい」と話す吉田さんと早川さん。スタートラインに立った先駆者の挑戦がまさに今始まりました。



「『エコポイント』は、地域みんなが幸せになれる取り組み。参加者をいかに掘り起こすかがポイント」と話す早川さん(左)。

「日本人は捨てることに慣れてしまった。でも捨てるに使う方法は必ずある。続けることが大事」と話す吉田さん(右)。

エコポイント事業の仕組み



ふくしま環境・エネルギーフェア 2008

入場無料

日時: **12月20日(土) 21日(日)**

午前10時～午後5時 (21日は午後4時まで)

会場: **ビッグパレットふくしま**(郡山市安積町)

◆ セミナーなどの主なイベント

- 「片山右京」講演会
20日午後零時20分～
- 地球温暖化シンポジウム
20日午後2時～
- “さかなクン”トークライブ
21日午前11時15分～
- 新エネルギーシンポジウム
21日午後1時～



片山右京氏

◆ 環境・エネルギー関連企業などの展示ブース

◆ 体験コーナー

- 新エネルギー教室
- CEV(クリーンエネルギー自動車)展示・試乗会
- 飲食コーナー
(地産地消・フードマイレージコーナー) など



◆ その他

- 地球にやさしい「ふくしま」高校生CMコンテスト審査会・表彰式
- 映画上映会 「不都合な真実」「KIZUKI」
- 「Nazca(ナスカ)」エコなびライブ
- たえこママの地球にやさしい「エコなびクッキングステージ」
- ゴミレンジャーショー など

“ふくしま”の未来を守るために

福島県の恵み豊かな自然を未来に引き継いでいくには、私たち一人一人が地球温暖化などの環境問題と向き合い、具体的な行動を起こすことが何より大切です。



福島県知事 佐藤 雄平

エコバッグを使う、こまめに電源を切る、節水に努めるなど、できることから地道に続けていくことが求められています。

子どもたちと温暖化対策について約束を交わす福島議定書では、昨年度二酸化炭素を123トンを削減することができました。今年度、対象を事業所にも拡大したところ1,800近い事業所から賛同をいただくなど、その輪は大きく広がっています。

私たちの決意と行動が、福島県の、そして地球の未来を守る大きな力になります。皆さん、できることから今すぐ始めましょう。

地球にやさしい“ふくしま”宣言

1人、1日、1kg CO₂削減にチャレンジ!

例えば…

- 暖房の設定温度を22度から20度に下げる ……(96g)
- 体や頭を洗う時は、風呂のお湯を利用してシャワーを使わない ……(371g)
- 使わないときは、暖房便座のふたを閉める ……(15g)
- 買い物の際は、エコバッグを利用し、省包装の野菜を選ぶ ……(62g)
- 通勤や買い物の際にバスや鉄道、自転車を利用する ……(180g)
- 主電源をこまめに切り、待機電力を節約する ……(65g)

※()内が1日で削減できるCO₂の量

問 県庁環境共生課 ☎024(521)7813

県民運動として
うつくしま、ふくしま。“県民運動でも、重点テーマの一つに「環境問題への対応」を掲げています。

まずは、家庭や職場、地域において、小さなことでもできることから一つずつ、地球温暖化対策に取り組んでいきましょう。



データでわかる ふくしまで起きた火災

県内では毎年多くの火災が発生し、多額の損害や犠牲者が出ています。平成19年の出火件数は952件で、損害額は約29億円に上りました。件数で最も多いのは、全体の55.1%を占める建物火災で、次いで林野、車両となっています。原因別^{※1}にみると、たき火が最も多く、こんろ、放火、たばこ続きます。放火と放火の疑いを合わせると、平成8年以降12年連続で出火原因の1位となっています。

死者は52人で、冬期間に多くの犠牲者が出ており、放火自殺等^{※2}の24人を除くと、逃げ遅れが多数を占めています。年齢別では全体の約4割が65歳以上の高齢者です。そのような中、本県の住宅用火災警報器の推定普及率(平成20年6月現在)は16.9%で、全国平均を下回っています。

(出典: 県消防保安課業務資料(平成19年値)、総務省消防庁調査資料)

※1 不明・調査中およびその他を除く

※2 放火自殺者、放火自殺の巻き添え者および放火殺人の犠牲者

